

令和6年度 事業報告書 下京いきいき市民活動センター

【指定管理者：有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 8 名（常勤：1 名、非常勤：7 名）

【人材育成の取組】

- ・新採職員に対する研修（窓口対応・貸館業務等に関する OJT）
- ・センター運営に関する全体研修（年 1 回）
- ・定例スタッフミーティング（月 1 回）
- ・スタッフ一人ひとりとの面談（年 2 回）

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
332	362	451	360	403	295	304	307	286	289	307	353

(年間)

4,049 件（前年度比 111%）

9,666 時間（前年度比 101%）

イ 利用状況

昨年度に引き続き、利用件数が前年度を 1 割程度上回り、利用は順調に増えていると言えます。毎月 10 団体以上の新規登録もあり、今後も利用増加が見込めます。

ウ 利用促進に向けた取組

楽器練習ができる「音楽室」・「集会室」の土日の利用率が 90%に達している状況を鑑み、同じ 3 階のフロアにある「会議室 3」・「和室」でも一部の楽器を使用できるよう、ルールを改めました。それにより、今まで予約が取れなかった音楽団体も使用できるようになりました。

また、通勤や通学でセンターの周辺を歩く人に向けてセンターの外部掲示板の情報を見やすく改めたり、ホームページで SEO を改善したり、事業者向けにインボイス対応できること周知するなど、認知の向上に努めました。

エ その他

サロンの年間来訪者数は 361 名でした。昨年度（840 名）からは大きく減少しましたが、概ね一昨年度と同程度の利用がありました。減少の大きな理由は、昨年度行われた京都市立芸術大学の授業での利用がなかったことに依ります。

一方で、個人的に利用を継続している芸大生や、今までは利用しなかった近隣の子どもたちも訪れるなど、幅広い年代の利用が広がった 1 年でした。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

貸会場の紹介や事業の取組など、Facebook や Instagram 等の SNS で発信しました。また、最寄り駅からセンターまでの道順がわかりにくいという声を受けて、スタッフが駅からセンターまでを歩いて紹介する動画を作成しました。

またセンターの取組だけでなく、下京区域ともかかわりの深い活動を行う活動者 3 名（「エビバデ京ほっぷ・橋本さん」／「祇園祭ごみゼロ大作戦・太田さん」／「笑いヨガ・上田さん」）に学生スタッフがインタビューを行い、WEB 記事にまとめて発信しました。

イ 取組の効果

発信媒体	ビュー数 リーチ数	ユーザー フォロワー	投稿数	いいね数
ホームページ	63,446 回 (190%)	13,470 名 (115%)	-	-
Facebook	61,831 回 (※)	576 名 (42 名増)	127 回 (※)	1,804 回 (※)
Twitter	—	—	—	—
公式 LINE	-	58 名 (7 名増)	14 回 (36%)	-
Instagram	36,523 回 (※)	367 名 (207 名増)	108 回 (※)	626 回 (※)

・昨年度と比較できるものは（）内に表記。

・※は、Meta 社のシステム事情により 4 月 1 日～9 月 22 日までの数値が計測できなかったため、前年度比ができなかった。

(4) 管理運営

消防用設備点検、建築設備点検等、施設保守に必要な点検を実施しました。空調機器に不具合が起こることが頻繁にあり室外機の修繕を行いました。

(5) その他

センター近隣の他機関との連携が盛んに行われるようになりました。これまでも「崇仁デイサービスセンター」と消防訓練の共同実施などはありませんでしたが、「下京・東部地域包括支援センター」と崇仁地域の買い物困難の課題を解決するための移動販売の実施や、「崇仁児童館」とセンターの花壇を通じた食育プログラムの実施、また大学生を巻き込んだプログラムでは「下京青少年活動センター」「京都市立芸術大学」と様々なシーンで協働できました。地元の自治会や、下京区役所や市の関係部局との意思疎通を図りながら、京都駅東部エリアのまちづくりの中心を担えるセンターを目指していきます。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs コミュニティ オーガナイザー (SCO) の育成・支援事業 (市民活動支援・活性化事業)

- 1 開催日時：①令和5年4月～令和6年3月（随時）
②令和7年3月2日 10:00～17:00
- 2 開催場所：下京いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①延べ6団体／②延べ198名（対面参加58名・オンライン参加140名）
- 4 協力団体等：京都市立芸術大学・崇仁自治連合会・七条中央サービス会等
- 5 予算： 1,705,000 円 / 決算： 1,711,528 円

1 事業内容

①若者による持続可能な地域社会を構築するための活動の相談・伴走支援

主に京都市立芸術大学の学生・卒業生のアート活動と地域課題を連結するための相談・伴走支援を行いました。【きょうげい B-LABO】【あつめやさん】【崇仁すくすくセンター】【ナメディアプロジェクト】【京都市立芸術大学 油画専攻】【一般社団法人ヴァリアスコネクションズ】の6団体の支援を通じて、ものづくり・フリーペーパー・絵画・写真を切り口に地域住民にアプローチできる取組を生み出すことができました。

②地域活動に必要なスキル・ノウハウを学ぶ公開講座の実施

センターで行ってきた取組の考え方やノウハウを分かち合うイベント、『しもいきトークライブ ～下京いきセンはどこへむかうのか～』を開催しました。

- ◇【セッション1「アートと地域文化の融合」】
- ◇【セッション2「多世代が交流できる公共空間が生む価値」】
- ◇【セッション3「大学生がまちにもたらすもの&まちから学ぶもの」】
- ◇【セッション4「ともすごツアーと Well-being なまち」】
- ◇【交流企画「子どもたちのお手製ガチャ・シニアの手芸作品展示」】

2 準備段階での工夫

②では多様な方の参加を促すために、対面・Youtube 配信を同時に実施しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

若者による地域活動を生み出し・活性化すること（5プロジェクト）を目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

①では目標以上の相談があり、活動を具体化することができました。活動者からは「いきセンが地域との関係性を深める大きな支えになっていた。」とお声をいただきました。

②では想定以上の参加があり、アンケートの満足度も非常に高いものになりました。

4 今後の抱負

活動伴走やイベントを通じて、改めて地域全体で子どもや若者のチャレンジを育もうとする意思を実感します。今後もより多くの地域活動を生み出していけるよう努めていきます。

事業風景の写真

【①きょうげい B-LABO による取組 “革靴” をつくった学生と地元のおばあちゃん】



【②『しもいきトークライブ ～下京いきせんはどこへむかうのか～』セッション3の様子】



【事業名】副業型研究員 EKKYO による事業者×市民活動の連携をもとにした魅力発信・持続化支援事業（市民活動支援・活性化事業）

- 1 開催日時：①令和 6 年 10 月～令和 7 年 3 月（計 10 回）
②令和 6 年 9 月 25 日／10 月 27 日／11 月 24 日（計 3 回）
- 2 開催場所：京都市内各所
- 3 参加人数：①ツアー延べ 45 名／②研究会延べ 42 名／③コミュニティ登録者 31 名
- 4 協力団体等：フリーペーパー「ハンケイ 500m」など
- 5 予算： 1,665,000 円 / 決算：1,666,457 円

1 事業内容

①地域活動者の日常を体験する「ともにすごすツアー」

地域で活動する個人に焦点をあてたワークショップを計 10 回実施しました。

『食べておいしい 喋ってあったかい 商店街の表裏』（2 回）／『SUJIN CRAFT TOUR』／『まちの豆腐屋さんの門出をキッチンカーで祝う旅』／『ローカルに必要なメディアを考えるツアー』／『職人さんの日常に浸ろう～京小紋・兼松染色～』／『市立芸大の学生と一緒につくる商店街 POP ツアー』（2 回）／『町工場の跡地で行われるリ・オブジェクトツアー』／『まちの音に耳をすませば ～西陣のサウンドスケープで出会った人々～』

②他地域の実践例をもとに学ぶ「ともすご研究会」

商店街や工芸をテーマに他地域の事例を学ぶオンラインイベントを 3 回実施しました。

『ともすごツアープロジェクト大構想』／『ともすご研究会 Vol.1～商店街の日常をひらく～』／『ともすご研究会 Vol.2～工芸の世界をひらく～』

③事業参加者が自由に意見交換できるコミュニティ「ともすごコミュニティ」

事業参加者が任意で参加するオンラインコミュニティをつくりました。

2 準備段階での工夫

中小企業の課題解決や観光プログラム開発にノウハウをもった副業型研究員 EKKYO の強みを活かした事業運営体制を整えました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

下京の住民・事業者と市民による協働型コミュニティの形成（30 名）を目標としました。

（2）事業実施による目標の達成度

当初予定していたより多くのツアーを実施することができ、最終的にコミュニティ登録者も 30 名を超えることができました。事業参加者からは「ナビゲーターのフィルターを通した価値共有が新たな発見と関係性を深める機会になる取り組み」とお声をいただきました。

4 今後の抱負

ツアーや研究会に参加し、一人ひとりの価値観や地域に対する想いが大事にされる社会に共感した方が、コミュニティに登録されています。今後は、この共感コミュニティの中から、新たにツアーをやってみたいという方を生み出せるように仕掛けていきたいと思っています。

事業風景の写真

【①「食べておいしい 喋ってあったかい 商店街の表裏」ツアーの様子】



【①「職人さんの日常に浸かろう～京小紋・兼松染色～」ツアーの様子】



【事業名】ダイバーシティを学び・表現するための多世代交流拠点化事業
(サロン運営・活用事業)

- 1 開催日時：①令和6年4月～令和7年3月
②令和6年12月21日、令和7年3月26日 など
- 2 開催場所：ふれあいサロン・下京いきいき市民活動センター1階ロビー
- 3 参加人数：サロン来館者数延べ361名
- 4 協力団体等：崇仁児童館・崇仁デイサービス・下京東部地域包括支援センター など
- 5 予算： 1,380,000 円 / 決算：1,383,387 円

1 事業内容

①誰もが気軽に立ち寄れる空間づくり

多様な方が気軽に集まれる場にできるよう、地域の高齢女性たちが手作りで作った折り紙作品を入口に展示したり、高齢男性ボランティアの力を借りて樹木を伐採するなど、部屋の内外ともに明るい雰囲気づくりに努めました。

②地域課題解決に関心のある市民が挑戦できる場づくり

サロンに集う多様な市民が、地域課題を解決する新たなプロジェクトを生み出しました。

◇ ”音楽“を通じた多世代交流『みんなで音楽カフェ』

毎月サロンでウクレレの演奏を行っているメンバーが、下京東部地域包括支援センターが行っている移動販売に合わせて、いきセンの1階ロビーで実施した音楽会です。

◇ ”地元の小学生“同士のつながりをつくる『学年いろいろ交流会』

地域の小学生から、「学校で不登校になってるような子も来れるようなイベントをしたい」という相談を受けて、子どもたち自身が企画・実施したイベントです。当日は地域のお店でもらった端材を使った工作や、防災時に役立つ料理などをして楽しみました。

◇ ”芸大生“の孤食をふせぐ『脱・孤独のグルメ』（不定期）

京都市立芸術大学の学生から、「学食がなくてお昼ご飯を食べる場所に困っている」という相談を受けて一緒に企画した、サロンでお昼ご飯を一緒に作って食べるイベントです。

2 準備段階での工夫

年齢や所属に関わらず、訪れた人たちの“やりたいこと”に寄り添う姿勢を心がけました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

多様な世代の来訪者が訪れ、地域に還元できる取組を生み出すことを目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

シニア・主婦層・芸大生以外にも、地元の子どもたちが訪れるようになるなど多様な年代の利用が進みました。

4 今後の抱負

どの取組も少人数ゆえの温かさ・居心地の良さを感じる一方で、サロンの年間来訪者数は大きく減少してしまいました。改めて、サロンに人を呼び込む工夫を検討していきます。

事業風景の写真

【②”音楽“を通じた多世代交流『みんなで音楽カフェ』の様子】



【②”地元の小学生” 同士のつながりをつくる『学年いろいろ交流会』の様子】



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：6,348,120 円（前年度比 101%）

内訳 会議室等：6,278,400 円
附属設備：69,720 円 ※自主事業分を除く

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

特になし

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
45.3% (39)	49.6% (58)	0.8% (0.3)	0% (0)	4.3% (1.9)

※質問7項目の平均点を記載しています。

※（ ）内は前年度の数値です。

(2) センター独自アンケート

特になし

3 意見等への主な対応状況

全項目において【たいへん満足】【満足】の回答が90%を超える良い結果となりました。

その中では、相対的に「あいさつや声かけ」「表情や態度」についての評価が低く、具体的な意見としては「少し声をかけにくい雰囲気がある」という意見がありました。

そこで、スタッフ全員で協議して、以下の対応策をとることにしました。

①窓口に来られた方だけでなく館内ですれ違う方にも挨拶や声かけを行っていくこと

②窓口に来た方にすぐ対応ができるようスタッフが使用する机の向きを変えること

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

【事業等の総括】

・(センター運営)

貸館の利用状況・窓口アンケートの結果ともに非常に順調です。下京区だけでなく、京都市内外全域からの利用がありニーズの高さを感じます。また地元自治会や近隣の他機関との関係も年々良化してきており、スムーズな協力・連携が取れるようになってきています。

・(市民活動支援・活性化事業)

大学生や社会人などの若者が中心になって、自分たちの“やりたいこと”が、地域課題の解決につながる事例を生み出すことができています。『しもいきトークライブ』では、これまでのセンターの取組をより多くの方に知っていただくことができ、センターのコンセプトである“ダイバーシティズン”の具体的なビジョンを分かち合うことができました。

・(サロン運営)

サロンを中心に多様な年代のコミュニティが徐々に生まれてきています。特に、今年度は、地元の小学生がサロンを使ってイベントを企画・実施するなど、高齢者のための施設から地域の誰もが使える施設に進歩できた1年だったと感じます。

【今後の課題】

・(センター運営)

繰り返しになりますが、設備の経年劣化が大きな課題です。昨年の報告でも記載した、火災報知器や非常時の誘導灯のバッテリー交換などは、費用が高額のためなかなか改修が進捗していません。施設の新鮮さやアクセスの良さ、近隣の開発状況を鑑みると、今後ますます市民・事業者からのニーズが増えることが想定されます。大きな改修は行わない基本方針があるとはいえ、改めて相談・検討させていただきたい課題です。

・(市民活動支援・活性化事業)

センターが伴走する取組の多くは、「地域で何かしたいと思った個人」と「地域の〇〇さん」という個人単位のつながりから始まっています。そのつながりを生み出すために、スタッフは、何かしたい個人に粘り強く向き合い、地域の様々な人を知っている必要があります。そうした熱意と能力をもった人材の確保が課題です。

・(サロン運営)

サロンの場所がわかりづらいため、なかなか認知をしてもらうことができません。周辺の開発が進む中で、改めてサロンのブランディングを明確にし、まちの余白的な価値を求めている人に訴求していく必要があります。

【次年度に向けた対応】

センター周辺の開発スピードは早く、京都駅東西のまちの変化は著しいものがあります。住民の高齢化もあいまって地域独特の歴史や文化は失われつつある一方で、新たな視野や考え方をもちた芸大生や若手アーティストの活動も盛んになってきています。貸会場の利用団体、市民活動相談の件数も増えてきています。地域住民や学生・事業者も含めた利用団体、それぞれの“ニーズ”や“課題”に一つ一つ丁寧に応えていけるセンター運営を目指したいと思います。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特になし。

【締め切り】

4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。